

令和7年度 埼玉県国語教育夏季研修大会 発表資料

白岡市立篠津小学校 吉田 幸枝

児童一人一人が「わかる・できる」を実感できる指導法の工夫

1 はじめに

(1) 研究主題設定の理由

本校では令和5年度まで、算数科における数量や図形に対する技能や計算、数学的に考えて表現する力を伸ばす取り組みをしてきた。その成果を引き継ぎながら、埼玉県の指導の重点の一つである「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、児童生徒が学習内容を深く理解し、能動的に学ぶことができる授業を目指し、本主題を設定した。令和6年度からは、高学年を中心に一部教科担任制を導入したことに伴い、国語、算数の2教科の研究に取り組んでいる。

現在は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を視野に入れ、児童が一人ひとりの興味・関心などに合わせて活動等を選択できる場面を設定した授業にも挑戦している。

(2) 目指す児童像

授業において「わかる・できる」楽しさを味わい、笑顔になる児童

「わかる・できる」とは

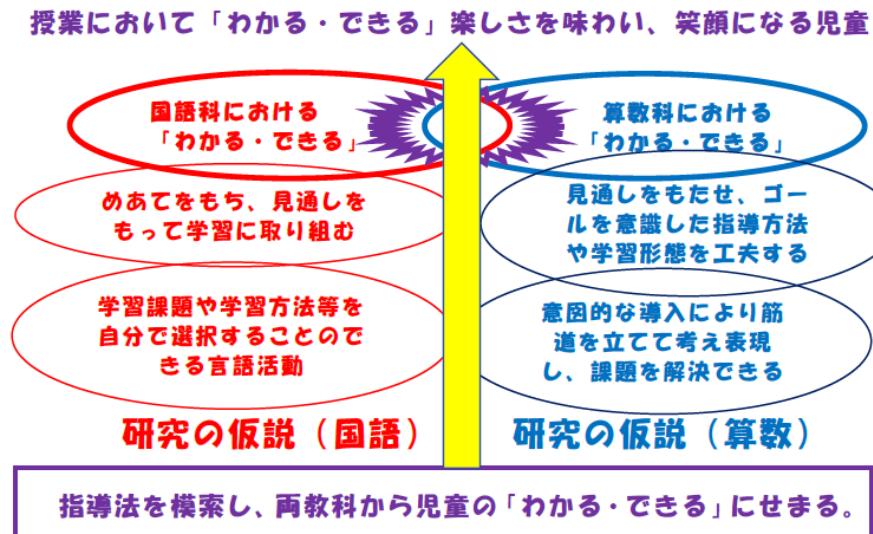
- ・課題が分かる—自分が何を身に付ければよいかが分かっている。
- ・解決のための方法が分かる—解決に向けて活動の見通しがもてている。
- ・解決できる—解決のための知識・技能を身に付けている。
- ・活用できる—一身に付けた力を実感し、生活に生かすことができる。

(3) 研究の仮説

仮説1 児童が自分自身のめあてをもち、見通しをもって学習に取り組むことができれば、身に付いた力を自覚し、「わかった」「できた」を実感することができるだろう。

仮説2 児童が学ぶことへの興味関心をもち、学習課題や学習方法等自分で選択することができる言語活動を工夫すれば、児童が学ぶ楽しさを味わうことができるだろう。

(4) 研究構想図



2 授業実践

(1) 単元名・教材名

つながりを見つけながら読み、おもしろいと思ったことを話しあおう
「友情のかべ新聞」

(2) 児童の実態と本单元の意図

児童の実態としては、次のことが挙げられる。

- ・第4学年教材「白いぼうし」では、ファンタジー教材のしきけを考え、言葉に着目して出来事と人物の気持ちを捉える学習をしている。
- ・「一つの花」では、キーアイテムと中心人物との関係、キーアイテムに込められた願いを読み取る学習をしている。
- ・「ごんぎつね」では、場面の移り変わりと結び付けて人物の気持ちの変化を捉えたり、情景描写から登場人物の気持ちに迫ったりし、感想をもつ学習を経験している。
- ・感想や考え、その根拠となった叙述を他者と比べることを通して、友達と感じ方や考え方が異なることを知ることができ、読みを深めることができた。
- ・小グループで話していく中で、自分の考えをもつことが難しい児童も周りの児童の助けを受け、意見をもとうとする姿が見られている。

本单元では、叙述と叙述を結び付けることで意味を発見したり想像したりしながら主体的に読み、おもしろいと思ったところをまとめる言語活動を行った。並行読書ができる環境を整え、「読みたい」「なぞを解き明かしたい」という児童の意欲を高め、それを誰かに伝えたいという思いを引き出した。伝える相手として、同じ作品を読んで内容を理解している人がよいと考え、同じ学級の友達を設定することで、相手意識、目的意識をもって取り組ませた。どの叙述とどの叙述とを結び付けるかを、読者である児童たち自身が考えて読んでいくことが重要になる。ミステリーを読むことには、物語の布石や伏線を見つけ、それらを結末などと結び付けて意味を見いだしたり、新たな結び付きを発見したりするところにおもしろさがある。こうした読みを通して、解釈することは、作品や叙述のもつ意味を問い合わせたり、発見したり、作り上げたりすることにつながることを実感できるだろう。

物語には、登場人物の設定や文章の組み立てに、いろいろな工夫やしきけがあるが、「友情のかべ新聞」は、推理のための伏線として、それらが周到に用意されている。伏線のつながりに気づいたときに、児童の中に湧く、自らの発見を誰かに伝えたいという気持ちを大事にして、学習に取り組ませた。この物語を読んで、児童たちそれぞれの中に芽生えた問い合わせ、読みの観点を大事にして、読み進めた。考えたことを伝え合う場面では、考えや感じたことを出し合うだけではなく、いろいろな見方・考え方出会いとの価値を児童たちに感じ取らせることが重要である。友達がどのように考えを伝え、自分はその考えを聞いてどう感じたのかを振り返らせた。着目した観点、叙述が違えば、この物語への感想は違ってくるだろう。なぜ違いが生まれたのかを、交流を通して考えさせた。

(3) 本校の研究主題とのかかわり

＜研究の仮説 その1＞

児童が自分自身のめあてをもち、見通しをもって学習に取り組むことができれば、身についた力を自覚し、「わかった」「できた」を実感することができるだろう。

【手立て】

○单元の初めに、物語を読んだ感想や考え、問い合わせをもたせ、それらと目標を関連付けながら学習計画を立てることで、見通しをもって学習に取り組めるようにした。

○おもしろいと思ったところを巻物にまとめることを言語活動として設定し、児童の学びが目に見える形になるようにした。

＜研究の仮説 その2＞

児童が学ぶことへの興味関心をもち、学習課題や学習方法等を自分で選択することのできる言語活動を工夫すれば、児童が学ぶ楽しさを味わうことができるだろう。

【手立て】

○関連する図書資料を用意し、並行読書ができる環境を整えることで、自分が興味をもった資料を選択することができるようとした。

○叙述と叙述を結び付けて考える活動では、自分に合った取り組み方（一人・ペア・グループ）を選択できるようにした。

(4) 単元の目標

ア 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。 (知識及び技能) (3) オ

イ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。 (思考力、判断力、表現力等) C (1) エ

ウ 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等)

(5) 本単元における言語活動

おもしろいと思ったところをまとめた。 (関連: [思考力、判断力、表現力等] C (2) イ)

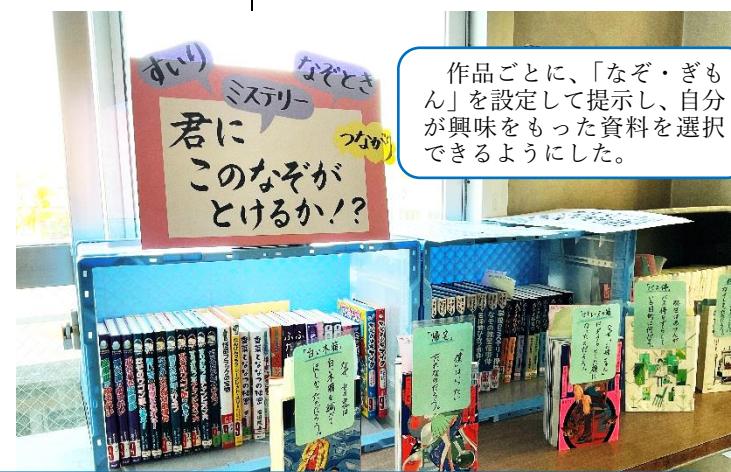
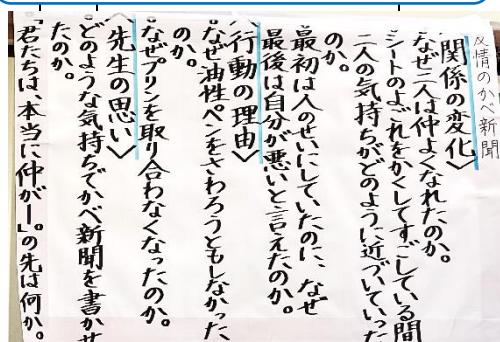
(6) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。 ((3) オ)	①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 (C (1) エ)	①進んで、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。

(7) 指導と評価の計画 (全8時間扱い)

次	時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
第1次	1	<ul style="list-style-type: none"> ○題名やリード文から物語を想像した。 ○これまでの物語の学習を振り返った。 ○学習課題を設定し、学習計画を立てた。 <p>⑤他の作品の「おもしろい」というところを見つける。 ④③登場人物の関係の変化を考 え る ②「ぼくのすりの手がかり」を 思 考 す る ①登場人物のせいかくや行 動 を 考 え る ④おもしろいと思つたところに 話 し 合 う。 ⑤他 の 作 品 の 「 お も し ろ い 」 と 思 つ る と こ う を 見 つ け る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通し ・学習課題と単元計画の設定 <p>へ単元のめあて 書かれていることのつながりを見 つけながら読み、おもしろいところに ついて話題合おう。</p> <p>①②③④⑤</p>	<p>○リード文を読み、題名から物語についての想像を膨らませ、ミステリーを読むことに関心をもたせた。</p> <p>○既習事項を振り返り、今後の学習にいかす意識をもたせた。</p> <p>○学習課題、学習計画を確認することで、単元で取り組む学習を意識させた。</p> <p>○「この本、読もう」で取り上げられている本や教室の読書コーナーの本から読みたい本を選び、並行して読み進めた。</p>

学習課題、単元計画の設定をし、身につけたい力「つながりを見つけるながら読むこと」を確認した。



初発の感想から、児童が解き明かしたい「なぞ・ぎもん」を教師が分類してまとめ、掲示した。児童が考えた「なぞ・ぎもん」は、読み進める中で各々が解決しくようにし、全員が考える「なぞ・ぎもん」は、教師が設定した。

第2次	<p>○登場人物の性格や行動を確かめた。 ○書かれていることのつながりを見つけながら読み、「ぼく」は何を手がかりに推理したかや登場人物の気持ち、関係の変化を考えた。</p>	<p>・登場人物の性格や行動 ・叙述と叙述を結び付けること ・登場人物の気持ちの変化</p> <p></p> <p></p>	<p>○「ぼく」視点で書かれていることを押さえ、登場人物の特徴をまとめさせた。</p> <p>○同じような事柄が書かれているところや、読者に「なぜだろう。」と思わせるような行動が書かれているところを探し、場面と場面を結び付けて考えさせた。</p> <p>○「ぼく」の推理とそれに対応する着目した叙述を短冊に書いて整理させた。</p>
			<p>[思考・判断・表現①]</p> <p>発言・記述</p> <ul style="list-style-type: none"> 登場人物の気持ちの変化や性格について、複数の場面の叙述を結び付けて具体的に想像できているかの確認。
			<p>「なぞ・ぎもん」と、児童が解き明かした答えを共有して掲示した。</p>
第3次	<p>○おもしろいと思ったところについて、理由とともに書きまとめた。</p>	<p>・登場人物の気持ちの変化を想像すること ・叙述と叙述を結び付けて想像すること</p>	<p>○短冊でまとめたものを確認しながら、おもしろいと思ったところを、その理由とともにまとめさせた。</p>
			<p>[思考・判断・表現①]</p> <p>発言・記述</p> <ul style="list-style-type: none"> 登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けて多様に想像を広げて読むことができているかの確認。
			<p>おもしろいと思った理由を、吹き出しの形の付箋に書き、思ったところが書かれた短冊に貼らせるようにした。</p>
第3次	<p>○おもしろいと思ったところについて話し合った。</p>	<p>・考えたことの伝え合い</p>	<p>○叙述のつながりに着目して話し合うことができているかを確認させた。</p> <p>○友達の考えについて、納得したことや新たな発見があった場合は、青鉛筆で書き加えさせることで、自分の考えと友達の考えを区別できるようにした。</p>

		<p>[主体的に学習に取り組む態度①] <u>観察・記述</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けながら想像して読み、おもしろいと思ったところを伝え合おうとしているかの確認。
⑦ ・ 8	<ul style="list-style-type: none"> ○身につけた力を確認した。 ○別の作品を読み、推理していくための文章のつながりや組み立て、謎解きのおもしろさについて考えた。 <p>○おもしろいと思ったところを文章にまとめ、話し合った。</p> <p>○単元の学習を振り返った。</p>	<p>・叙述と叙述を結び付けること</p> <p></p> <p></p> <p>・叙述と叙述を結び付けて想像すること</p> <p>・振り返り</p> <p></p> <p>・他のミステリーも、つながりを見つけながら読んでみたい。 ・一人でやったり、友達とやったりしてつながりを見つけることができた。</p> <p>「友情のかべ新聞」と同じ形で、おもしろいと思ったところを巻物にまとめることを言語活動として設定したことで、児童の学びが蓄積され、目に見える形になった。</p>
		<p>○前時までの学習を振り返り、身につけた力を押された。</p> <p>○着目した叙述を短冊に書いて整理させた。</p> <p>○短冊でまとめたものを確認しながら、叙述のつながりに着目して話し合うことができているかを確認させた。</p> <p>○モデル文を黒板に掲示しておき、児童が自由に見ることができるようにした。</p> <p>○登場人物の性格や様子、着目したい叙述に線を引いたヒント本を提示しておき、いつでも手に取って参考にできるようにした。</p> <p>○選んだ作品のおもしろいと思ったところを、叙述と叙述を結び付けて文章にまとめさせた。</p> <p>○単元の学びを振り返らせた。</p> <p>[思考・判断・表現①] <u>観察・記述</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移りわりと結び付けて多様に想像を広げて読むことができているかの確認。 <p>[知識①] <u>発言・記述</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 読書によって、疑問に思っていたことが解決したり、自分の興味が広がったりする楽しさを味わうことができているかの確認。

(8) 本時の学習指導 (本時 7／8時)

ア 目標

- 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。
〈思考力、判断力、表現力等〉 C (1) エ

イ 評価規準

- 「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。
〈思考・判断・表現〉

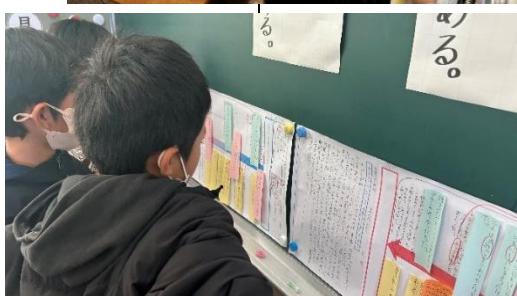
ウ 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点 (○)・評価	時間 (分)
1 本時の学習を確認した。 (1) めあて	○学習の見通し 身につけたことをいかして、他の作品のおもしろさを見つけよう。	○前時までの学習内容を、掲示物等を使って振り返り、本時の学習の見通しをもたせ、学習への意欲付けをした。 ○取り組み方（一人で、友達と）は自分の学びに合わせて選択してよいことを確かめた。 ○2時間扱いのまとまりであるため、本時で取り組む大体の目安を示した。	5
(2) 活動の流れ			
2 身につけた力を確認した。	○叙述と叙述を結び付けること	○前時までの学習を振り返り、身につけた力を押さえた。	3
3 他の作品のおもしろいと思ったところについて考えた。	○叙述と叙述を結び付けて想像すること	○「友情のかべ新聞」で身につけた力を使って他の本を読み、同じような事柄が書かれているところを短冊に書いて整理しながらまとめさせた。 ○短冊でまとめたものを確認しながら、選んだ作品のおもしろいと思ったところを考えさせた。 ○自分の考えをまとめる際には、短冊を動かしたり線でつないだり書き込んだりしてよいことを伝えた。 ○活動は「一人で取り組む」、「友達と取り組む」を主な形態とし、自分で選択できるようにした。途中で変更することもできるようにした。 ○モデル文を黒板に掲示しておき、児童が自由に見ることができるようにした。 ○登場人物の性格や様子、着目したい叙述に線を引いたヒント本を提示しておき、いつでも手に取って参考にできるようにした。 ○早く進んだ児童は、もう一度自分の考えを見直す、おもしろいと思ったところを挙げる、友達にアドバイスをする、のいずれかを選ぶこととした。	33

一人で取り組む



友達と取り組む



モデル文を黒板に掲示しておき、児童が自由に見ることができるようにした。

<探偵がいる作品>

探偵の推理と、同じようなことが書かれているところを探させ、叙述と叙述を結び付けて考えさせた。



<探偵がない作品>

自分の推理と、根拠となる手がかり・証拠が書かれているところを探させ、叙述と叙述を結び付けて考えさせた。



[思考・判断・表現①]

観察・記述

- 登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けて多様に想像を広げて読むことができている児童をBとした。

<「努力を要する」状況 (C) への手立て>

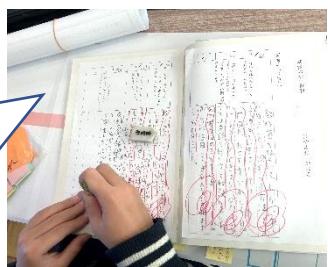
- 同じような事柄が書かれているところや、「なぜだろう。」と思わせるような行動が書かれているところを探させ、場面と場面を結び付けて考えさせるようにした。

<児童への助言>

作品の冒頭から順に書かせると、2時間で完結できないため、児童が読み取った「なぞ・ぎもん」の答えとなるものをはじめに書かせ、その根拠となる叙述を短冊に書いて、つなげさせるようにした。

4 本時の振り返りと次時の予告をした。

- もう少しで謎が解けそう。
- 一人で考えて、どんどん手がかりを見つけることができた。
- 次は友達とやりたい。
- 友達と一緒にやったから、推理が進んだ。

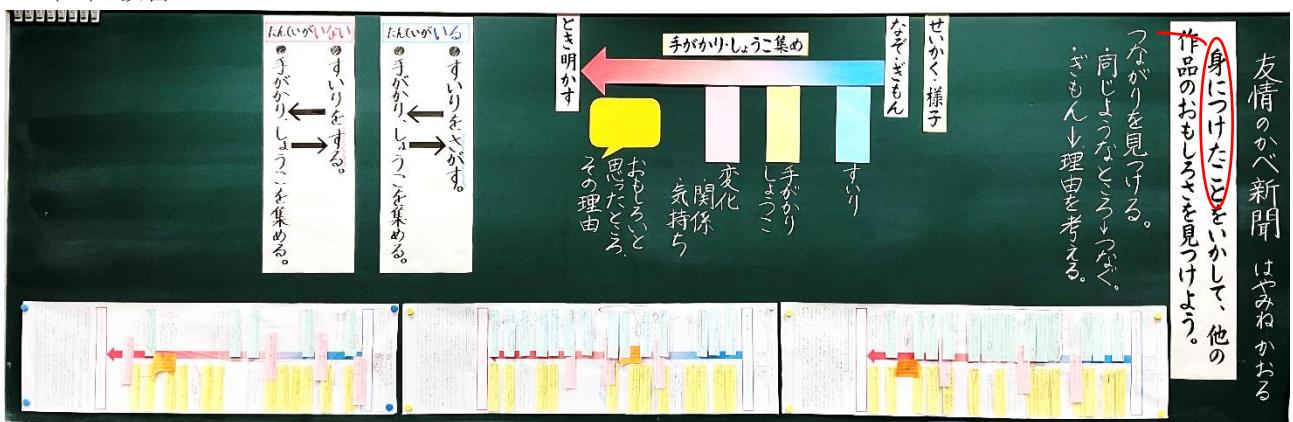


○本時にできしたこと、難しかったことなどについて振り返り、次時の学習につなげた。

○次時に、おもしろかったところをまとめる文章を書くということを確認した。

4

(9) 板書



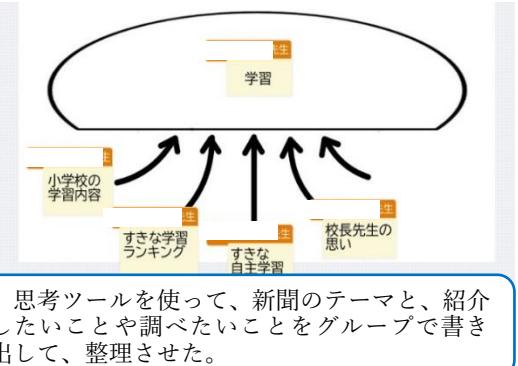
3 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るための授業改善

(1) 見せ方を工夫して書こう「新聞をつくろう」(4年生、6月)

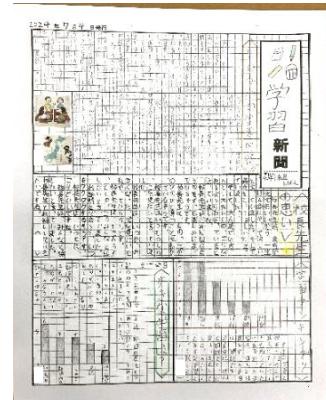
新聞のテーマや新聞名、相手、目的をグループで相談して決め、新聞制作の一連の過程をグループで行うようにし、必要に応じて編集会議を開催するようにした。

→新聞制作の一連の過程を友達と確認し、見通しをもって取り組むことができていた。

→グループの児童それぞれが主体的に関わりながら、新聞の完成を目指して協働して学習を進めることができた。



思考ツールを使って、新聞のテーマと、紹介したいことや調べたいことをグループで書き出して、整理させた。



(2) 気持ちの変化に着目して読み、感想を書こう「ごんぎつね」(4年生、9月)

一人一人が個別に叙述に着目して物語を読み、自分なりの考えをもつことを、学習の中で大切にした。同じ叙述に着目しても、そこから想像する登場人物の心情が異なることがある。それぞれの読みをグループで共有し、友達の意見を聞いて、納得したことや考えたことを青鉛筆で書き加えるようにしながら、より妥当な読みを協働的に作り上げていった。

→「わたしは～という言葉から…」「わたしも、同じところに注目して、…」「○○さんの話を聞いて、わたしも…」と自由に伝え合うことで、登場人物の心情を考え、課題を解決することができた。

(3) きょうみをもったことを中心に、しょうかいしよう「風船でうちゅうへ」(4年生、1月)

自分の興味に沿って、大事な言葉や文を書き出す活動では、取り組み方（一人で、友達と）を自分の学びに合わせて選択できるようにした。自分の興味に沿って、大事な言葉や文を短冊に書いて整理させることで、要約の違い、紹介文の違いが生まれ、自分にはない見方や考え方につれ、交流が生まれるようにした。

→モデル文を掲示し、自由に見ることができるようにしたことで、見通しをもって取り組むことができた。

→取り組み方（一人で、友達と）を選択させたことで、大事な言葉や文を書き出す活動に、自分のペースで安心して取り組むことができた。



「友情のかべ新聞」で学んだことを生かし、短冊を動かしたり線でつなぎたり書き込んだりして整理させた。

・ 風船でうちゅうへ （きょうみの中心）	・ そうちのくふう
・ 筆者が試行さくごする様子	・ そうちの改良
・ 失敗を次に生かそうとしているところ	・ どんな問題が起きても努力してかい決すること
・ 何回失敗しても続けたこと	・ あきらめずに続けたこと
・ 心が折れずに続けたこと	・ 研究のきっかけと思い
・ 筆者の挑戦	・ 筆者の勇気
・ 筆者の宇宙への思い	・ 研究のきっかけと思い
・ 研究のきっかけと思い	・ 筆者の勇気
・ 筆者の勇気	・ 研究のきっかけと思い
・ 研究のきっかけと思い	・ 筆者の勇気

4 成果と課題

(1) 成果

- ・ 単元の初めに、児童に身につけさせたい力を確認し、毎時間意識させることで、めあてをもって学習に取り組むことができた。また、言語活動を工夫し、児童の学びが目に見える形となるようにしたことで、主体的に取り組む姿が見られた。
- ・ 意図をもって図書資料を選書することで、児童一人一人が興味をもった資料を選択することができ、学ぶ楽しさにつながったと考えられる。また、さまざまな取り組み方を経験させ、一人で取り組むよさ、友達と取り組むよさを実感させたことで、自分に合った取り組み方を選択して意欲的に学ぶ姿が見られた。

(2) 課題

- ・ 児童が学習課題や学習方法等を選択して学びを進める場面の設定。
- ・ 友達と取り組んだ活動の評価の仕方。
- ・ 児童が主体的に、意欲的に取り組める言語活動の設定。
- ・ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業の事前準備。